

深夜化するライフスタイルの見直し <社会実験の結果>

地域限定・期間限定での実施

平成21年
熊谷 6/24～7/7 ・草加 7/1～7/14

- ① 夜10時以降の不要な照明の消灯
- ② 早めの退社等の取組を実施
→ 店舗・オフィス・周辺住民へアンケート

店舗の売上げへの影響や、安心・安全面での影響もほとんどない中で、2地区平均で実験前と比べて2.6%のCO₂削減ができた。

1 実験内容 (地元自治会、商工会議所、商店会、NPO、大学、市、県で実行委員会を組織して実施)

区分	熊谷地区	草加地区
期間	6月24日(水)～7月7日(火) 【2週間】	7月1日(水)～7月14日(火) 【2週間】
場所	熊谷駅北口 ○実行エリア 約26ha 店舗 253か所中88か所がアンケート回答(35%) オフィス 133か所中111か所がアンケート回答(83%) ○影響把握エリア 約170ha(1.7km ²) 1,118世帯がアンケート回答(回収率28%)	草加駅東口 ○実行エリア 約17ha 店舗 160か所中111か所がアンケート回答(69%) オフィス 31か所中26か所がアンケート回答(84%) ○影響把握エリア 約180ha(1.8km ²) 1,173世帯がアンケート回答(回収率19%)
取組	○午後10時以降の不必要な看板・ネオンの消灯(深夜も営業している店舗を除く) ○早めの退社(残業は遅くとも午後10時まで)	

2 明らかになった効果・影響

(1)CO₂削減効果

2地区の平均で実験前と比べ夜間のCO₂排出量を2.6%削減できた。

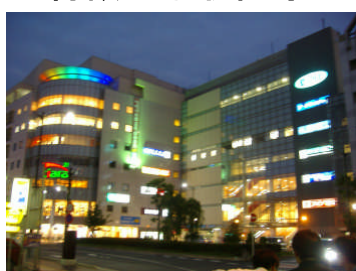
区分	熊谷			草加			2地区計
	通常時排出量 A	実験中削減量 B	削減率 B/A	通常時排出量 C	実験中削減量 D	削減率 D/C	削減率
店舗	42トン-CO ₂ (36か所)	0.51トン-CO ₂ (36か所)	1.2%	15トン-CO ₂ (47か所)	0.59トン-CO ₂ (47か所)	3.9%	1.9%
オフィス	5.4トン-CO ₂ (75か所)	0.56トン-CO ₂ (75か所)	11%	3.4トン-CO ₂ (8か所)	0.048トン-CO ₂ (8か所)	1.4%	7.0%
計	48トン-CO ₂	1.1トン-CO ₂	2.3%	19トン-CO ₂	0.64トン-CO ₂	3.4%	2.6%

※通常時排出量 (店舗) 17時から通常の看板・ネオン、屋内照明の消灯時刻
(オフィス) 17時から通常の勤務終了(=フロア消灯)時刻

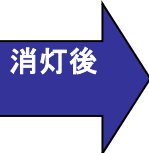
(2)CO₂以外の効果・影響 [アンケート結果から]

- ・【店舗】 売上げへの影響が「あった」→3%、「なかった」→96%、「その他」→1%
- ・【オフィス】 従業員からプラスの反応が「あった」→25%、「変わらない」→65%、「その他」→10%
- ・【世帯】 街の賑わいの点で「それほど変化を感じなかった」→75%、「我慢できる」→14%、「好ましくない」→5%、「その他」→6%
- ・【世帯】 街の変化を感じ、消灯等のために怖いと思ったこと「ある」→2%、「ない」→87%、「その他」→11%

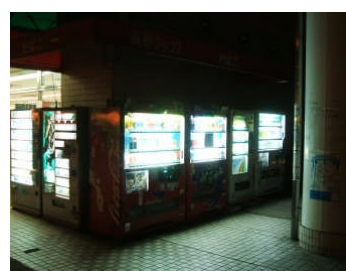
3 特徴的な取組等



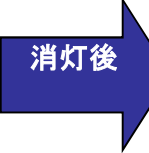
【熊谷地区】



ティアラ21などでの消灯をNHKで全国放送



【草加地区】



三国コココーラが自販機の減光を実施

4 まとめ・提言

- (1) 深夜化するライフスタイルの見直しは、初期投資が全く不要で確実な温暖化対策である。
- (2) 見直しに当たっては、地元住民や事業者の理解・熱意のもとで、地域特性に応じた方法を探っていく必要がある。
- (3) 今後も継続的に粘り強く深夜化の見直しを進めていくべきである。